

# 令和5年度 兵庫県立上野ヶ原特別支援学校 学校評価

評価（集計平均）      A・・・3.21      B・・・3.2～2.41      C・・・2.4～1.61      D・・・1.6～0

教育方針	児童生徒一人一人の障害の実態や特性に応じて、意欲的に生きる力を養い、社会的自立に向けて、個々の教育的ニーズに応じた指導と支援を行う。				
学校教育目標	1 一人一人の児童生徒の持てる力を引き出す 2 社会的自立と自己実現を目指す 3 すこやかな体と豊かな心を育てる	本年度 学校経営の 重点	(1)ICTを積極的に活用し広く情報発信を行い、ホームページや学校行事を通し学校の取組を知らせる (2)校務支援システムを利用したアセスメントの活用や個別の支援計画等の情報共有と連携 (3)児童生徒が主体的に進路を選択できるキャリア教育と進路指導の充実	本年度 学校経営の 重点項目	ア 教科指導及び生徒指導(道徳・人権・自立活動・特別教育活動を含む)    イ 訪問教育の充実 ウ 健康管理に関する指導    エ 防災教育の推進    オ 研究推進 カ 地域の特別支援教育のセンター的機能    キ キャリア教育・就労支援の推進 ク 「心のバリアフリー」の推進    ケ 新型コロナウイルス感染症等の対策を含めた安全管理の徹底 コ ICT教育の推進    サ 保護者連携    シ 関係機関との連携    ス 地域住民との協同や理解促進

本年度の重点項目(ア～ケ)	番号	分掌等	本年度の最重点目標と具体的方策	職員評価	職員集計平均	保護者評価	保護者集計平均	総括（成果及び課題と改善方策）	学校関係者評価
ア オ キ サ シ	1	小中学部	児童生徒の細やかな実態把握のもと個別の指導計画を作成する。授業内容や支援体制をチームで検討し、有効な個別指導と集団指導を行う。	A	3.21	A	3.60	学協会やクラス会等を通して、児童生徒の実態把握や個々の課題、有効な支援について、共通理解を深めるよう取り組んだ。今後は、グループ学習における実態を踏まえた目標設定や指導内容についてより深く共通理解を回れるようにしていくことが課題である。	【行事等について】 ・他校との交流では、児童生徒が良い刺激を受けていると感じられる。 ・学校行事に関して、いろいろな理由で参加が難しい児童生徒もいる。柔軟な開催方法の検討も必要でないかと思う。
	2		中学部卒業時の進路につなげていけるよう、長期的な視野でキャリア教育の意識を持って指導にあたる。保護者の思いが指導や支援に反映できるよう、連携を深める。	A	3.26			高等部につながるよう小学部段階から清掃活動や係活動に取り組んだ。各教科においては、卒業後の生活につながるよう体験学習（電車や買い物等）を重視してきた。今後は、働くことや楽しく生活すること等の視点からのキャリア教育に力を入れていくことが課題である。	
ア オ キ サ シ	3	高等部	学校生活の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を見つけ、自己実現していこうとする姿勢を育む授業づくりに取り組む。	B	3.17	A	3.67	各授業において、生徒が主体となり「考える」「やってみる」ことをテーマに授業作りに取り組んだ。順番や協力する場面を設定することや、視覚支援や明確な声かけ等をヒントに、自分で課題を選択し主体的に取り組めるようにすることで、一人一人が責任を持って役割を果たすことができた。その結果、自分らしさや友達の良い所を見つけることができた。また、生徒同士の言葉かけや関わり方等の改善がみられた。	【保護者との連携について】 ・保護者からは、「先生方はよくやってくれている。」との声が多いが、「連絡帳の読み取りが難しい。」との声もある。連絡帳だけではなく、参観日や行事等、保護者が来校する機会に教員が積極的にコミュニケーションをとることで連携を図るようにする。 ・児童生徒や保護者の思い、学校の伝統、教員のやらなければならぬこと、したいことがうまく連携できるようにする。
	4		生徒一人一人の適切な実態把握と支援とともに、主体的な活動を引き出す授業づくりに努める。それぞれの学習活動の目的とねらいと評価まで、教師間で共通理解して連携する。	B	3.17			指導支援方法についての話し合いや情報共有などの連携が増え、クラス・学年で相談をしながら生徒の実態や授業づくりについて考え、授業の内容や評価ができた。グループ、個別、クラスの形態で行うことで、一人一人の良さや個性を活かした活動につなげることができた。	
サ シ ス	5	総務部	本校は病弱の学校でもあることを配慮し、引き続き基本的な感染症対策をした上で、学校行事を実施する。	A	3.44	A	3.70	上野スポーツ大会や創作祭の学校行事、創立70周年記念式典事業などPTAの協力のもと実施することができた。また、昨年コロナ感染で中止となった警察音楽隊のコンサートを実施することができた。	【保護者との連携について】 ・保護者からは、「先生方はよくやってくれている。」との声が多いが、「連絡帳の読み取りが難しい。」との声もある。連絡帳だけではなく、参観日や行事等、保護者が来校する機会に教員が積極的にコミュニケーションをとることで連携を図るようにする。 ・児童生徒や保護者の思い、学校の伝統、教員のやらなければならぬこと、したいことがうまく連携できるようにする。
	6		基本的な感染症対策をした上で、参観日等は学校と保護者のつながりだけではなく、懇談の場を設け保護者相互のつながりも大切にしていきたい。	A	3.45			参観日は授業参観及び学部学年懇談を実施し学校と保護者との情報の共有が図れた。また、4年ぶりの障害基礎年金学習会を開催することができ卒業後の手続きなど情報交換の場となった。	
ア オ サ	7	教務部	懇談などを通じて、保護者と共通理解しながら個別の指導計画を作り、評価を共有する。	A	3.36	A	3.59	今年度より、個別の指導計画の様式を変更した。保護者向けに観点別評価の説明資料を配布した。大きな混乱なく変更することができた。今後も保護者との共通理解を大切に作成していく。	【キャリア教育について】 ・今年度始めた福祉事業所説明会は、良い取組である。今後は学校
	8		教科等の目標を意識した個別の指導計画を作成する。	A	3.21			合わせた指導系統表を作成することで、個別の指導計画の作成に生かすことができた。次年度は本校は見直し、さくら訪問学級、光の森分教室は新規作成、施行する。	
ア オ コ	9	情報部	学校HPの内容や学校ブログの内容を充実させ、インターネット等を用いた情報発信を積極的に行う。	A	3.52	A	3.30	学校HPにバナーを設置した。また、12月までの学校ブログの投稿件数は、昨年対比で166%増加し、訪問者数も61%増加した。教職員内の評価としては、全項目の中で、最も高く情報発信に注力したと言えるが、保護者の評価としては全項目の中で最も評価が低く、大きく乖離が見られる。紙面で発信している情報を徐々にペーパーレス化する等し、保護者のニーズに応えていきたい。	【キャリア教育について】 ・今年度始めた福祉事業所説明会は、良い取組である。今後は学校
	10		1人1台端末を有効活用するために、児童生徒の実態にあったアプリケーションの提案や活用方法の研修を通じて、教師個々のICT機器活用スキルを向上させる。	A	3.32			桃太郎電鉄教育版の活用を推進した研修会や授業検討会、各種アプリケーションの研修や日々の指導に関するフォローアップ体制を構築し、運用してきた。評価を各学部ごとに検討したところ、ICTの利活用については子ども自身がICT機器を利用できる高等部での評価が高い一方で、小学部では評価が低い傾向がうかがえた。今後も個々のフォローや主となるテーマを設定した研修会等を継続する必要がある。	
ク	11	生活部	副籍をいかした居住地校交流の充実を図るために保護者の意向や副籍校の意見を踏まえて内容や方法を定める。学校間交流においては交流を通じて経験を広げ、他者と関わる態度を育てる。	A	3.21	A	3.39	居住地校交流においては年度当初にアンケートを取り、保護者の意向を踏まえながら計画を進めた。活動内容は担任同士が打ち合わせを行い実態に応じて場の設定ができた。学校間交流においては、初めて会う友達とコミュニケーションを取ることで表現を工夫して相手に伝えることができた。	【キャリア教育について】 ・今年度始めた福祉事業所説明会は、良い取組である。今後は学校
	12		ふれあいサポートクラブの実施形態や実施内容等を見直す。令和6年度の実施要項の作成又は、未実施の場合は経緯をまとめる。PTA等を通じて保護者に丁寧に説明する機会を設ける。	B	3.20			昨年度に実施したアンケート結果をもとに学部学年から意見を集約し、ふれあいサポートクラブから高等特別支援学校との部活動交流へとかたちを変えた。今年度にプレ実施を行い、来年度から本格実施を行うために経緯等をまとめて要項を作成した。PTA月例会を通じて保護者へ説明を行った。	

# 令和5年度 兵庫県立上野ヶ原特別支援学校 学校評価

評価（集計平均）      A…4～3.21      B…3.2～2.41      C…2.4～1.61      D…1.6～0

教育方針	児童生徒一人一人の障害の実態や特性に応じて、意欲的に生きる力を養い、社会的自立に向けて、個々の教育的ニーズに応じた指導と支援を行う。				
学校教育目標	1 一人一人の児童生徒の持てる力を引き出す 2 社会的自立と自己実現を目指す 3 すこやかな体と豊かな心を育てる	本年度 学校経営の 重点	(1)ICTを積極的に活用し広く情報発信を行い、ホームページや学校行事を通し学校の取組を知らせる (2)校務支援システムを利用したアセスメントの活用や個別の支援計画等の情報共有と連携 (3)児童生徒が主体的に進路を選択できるキャリア教育と進路指導の充実	本年度 学校経営の 重点項目	ア 教科指導及び生徒指導(道徳・人権・自立活動・特別教育活動を含む)    イ 訪問教育の充実 ウ 健康管理に関する指導    エ 防災教育の推進    オ 研究推進 カ 地域の特別支援教育のセンター的機能    キ キャリア教育・就労支援の推進 ク 「心のバリアフリー」の推進    ケ 新型コロナウイルス感染症等の対策を含めた安全管理の徹底 コ ICT教育の推進    サ 保護者連携    シ 関係機関との連携    ス 地域住民との協同や理解促進

本年度の重点項目(ア～ケ)	番号	分掌等	本年度の最重点目標と具体的方策	職員評価	職員集計平均	保護者評価	保護者集計平均	総括（成果及び課題と改善方策）	学校関係者評価
ウケサシ	13	保健部	感染症対策を継続して行い、日常の授業や学校行事に安心して取り組めるようにする。医療的ケアを必要とする児童生徒や保護者の要望に応える。	A	3.35	A	3.58	登校後の検温で体調を確認し、手指消毒や換気に留意ながら、授業や学校行事を実施できた。医療的ケア対象の児童生徒に対しては、行事参加の際、保護者と丁寧な打合せをし無事に終えることができた。	から具体的にどのような説明があれば良いかなどの要望があるとよりやりやすい。 ・キャリア教育部の取組について、現在入学している生徒の保護者は就労についての心配が以前よりも解消されていると感じられる。 ・卒業後に目を向けた取組ができています。
	14		流行性の感染症予防のために手洗い・消毒等の衛生管理を継続して行うよう、学校全体で児童生徒に働きかけたり保健だより等で呼びかける。医療的サポート推進委員会を必要に応じて開き、指導医・主治医・看護師と共通理解を図りながら、児童生徒が安全に学校生活や行事に参加できるよう支援する。	A	3.33		新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した一方で、今年度はインフルエンザ発症の増加があり、感染を防ぐためのマスクや手指消毒の重要性は日常的に学校全体で共有できている。医療的サポート推進委員会は必要に応じて開き、児童生徒の現状や今後の方針を確認することができた。		
アカサシ	15	支援研修部(支援)	本人や保護者の意向をもとに支援の目標を立て、合理的配慮を含む支援の内容を具体的に計画し、適切な支援ができるようにする。必要に応じて、医療や福祉機関等と連携し、支援の内容を整理したり関連付けたりする。	B	3.30	A	3.36	保護者アンケートから支援の目標を立て、家庭訪問での話し合いを経て、適切な支援が行えるように取り組んだ。また、医療や福祉機関等との連携については、必要に応じて会議を行った。次年度も保護者と丁寧な話し合いを行い、計画を立てるとともに、より適切に支援できるように取り組むたい。	【関係機関との連携について】 ・企業・福祉との意見交換会で、今まで学校の中を見たことがない職員も、学校の様子を知ることができた。普段の支援・相談に活かせるものと考えている。 ・多くの関係者からは上野ヶ原特別支援学校と連携しやすくなったと聞いている。 ・関係機関や外部人材との連携により、進路拡大につながっている。
	16		三田市を含む県内の教育委員会や特別支援教育コーディネーター、通級による指導の拠点校と連携して、適切な情報提供や地域支援を行う。	B	3.09		三田市教育委員会からの依頼により、巡回教育相談、自立活動実地研修の実施及び就学相談会に参加し、支援や助言を行った。また、通級による指導の協力校として、拠点校と連携を図ることができた。次年度もセンター的機能の充実を図るとともに、地域校が必要とする支援をいつでも提供できるような体制作りに取り組むたい。		
アオシ	17	支援研修部(研修)	児童生徒が、いきいきと学習活動に取り組み、主体的、対話的で深い学びができるように、日々の授業研究や授業実践研修会を通して、資質及び実践力の向上を目指す。	B	3.05	A	3.60	個別の指導計画のもと、児童生徒及び各学部学年の実態に応じて授業計画を立て、授業実践を行った。また、児童生徒の興味関心から主体的な学習活動ができるよう、授業計画を立てた。次年度も、実態把握、授業計画、授業、授業後の振り返りを丁寧に行い、よりよい授業づくりができるような体制について検討していきたい。	【学校評価について】 ・ここ数年の学校評議員会の助言が生かされ実践されていると感じる。
	18		研修会や実践報告会を設定し、それぞれの取組を共有しながら、自立活動の指導を中心に特別支援教育に関わる専門性の向上を図る。	B	3.03		研修講座は、夏季休業中に対面形式とオンライン形式で実施し、「教材・教具」「動作法」「病弱」に関する内容の研修を行った。自立活動実践報告会、授業実践研修会の各学部学年の実践発表を通して研修を行った。次年度は、学校全体の研究テーマのもと、特別支援教育に関わる専門性の向上を図りたい。		
キサシ	19	キャリア教育部	社会生活に興味関心を高め、社会的・職業的自立に必要な力を育てるため、職場見学、校内実習、現場実習、校外学習、技能検定等の体験的活動に取り組む。また、企業・福祉事業所向けの学校見学会や定期的な訪問をするなど地域の関係機関と連携深めていく。	A	3.36	A	3.58	今年度新たに「企業・福祉事業所による学校見学会および意見交換会」を開催し、企業や地域福祉との連携を強化できたこと現場実習先の幅も広がった。校内実習では実際に店頭に並ぶ商品の提供や、企業の方に来ていただき、仕事を体験できるなど職業自立に向けた体験の幅を広げることができた。	【学校評価について】 ・ここ数年の学校評議員会の助言が生かされ実践されていると感じる。
	20		ニーズに応じた進路に関する情報を提供するため、キャリア教育だよりの発行、進路ガイドダンスや実習説明会、進路3者懇談会、福祉事業所説明会、個別の進路相談会、職員向けの研修を実施する。	A	3.47		キャリア教育だよりの発行や保護者の個別相談等で見学の案内をすることで企業、福祉事業所の見学会に積極的に行っていた。また、今年度新たに「福祉事業所説明会・体験会」を行うことでより良い進路実現に向けて考える機会ができた。職員向けの研修が予定より開催できず、来年度の課題とした。		
アオ	21	人権教育推進委員会	児童生徒が自己実現や自尊感情を育み、主体的に取り組めるような目標を設定し、学校行事や交流及び共同学習を実施する。	B	3.20	A	3.55	学校行事や交流及び共同学習を計画通りに行うことができた。一部動画配信になったものもあるが、楽しんで交流を深めることができた。また、自行動し交流を深める場面も見られた。今後も児童生徒が触れ合い、ともに尊重し合える態度を育む交流を計画していきたい。	【学校評価について】 ・ここ数年の学校評議員会の助言が生かされ実践されていると感じる。
	22		本校や分教室等の実態に即した人権教育を、日々の授業や生活、問題解決に生かせるように年に2回、ニーズに応じた研修会を実施する。	B	3.11		年に2回、本校は学部学年、分教室でそれぞれの内容にあった研修を行い、人権研修会を実施することができた。また、積極的に意見を出し合い研修内容を深めることができた。今後は、全体研修も視野に入れながら、研修内容を計画していきたい。		
シス	23	学校評議員会	令和5年度の教育活動の理解促進と学校経営目標実現のため、学校評価重点目標とアンケート項目を1学期中に保護者・学校関係者に公表する。職員は年度途中に学校評価の進捗状況を確認・評価するとともに、年度末に学校評価アンケートを実施し評価を行う。	A	3.26	A	3.65	保護者や学校関係者に対して、本年度の重点目標の公表や評価を年度当初の計画通りに実施することができた。今後も各専門部、委員会で学校評価目標を随時、確認・評価・改善することを意識する。	【学校評価について】 ・ここ数年の学校評議員会の助言が生かされ実践されていると感じる。
	24		学校運営のさらなる改善のため、各部・専門部・委員会ごとに設定した重点項目を、本校・訪問学級・分教室の教職員全員で共有し、それぞれの部署に応じて、重点項目の実現を目指す。	A	3.23		本校、訪問学級、分教室と場所は違うが、全員が県立上野ヶ原特別支援学校の職員ということ意識し、最重点目標の共有を図りつつ、それぞれの教育活動を大切にすることを旨とする。		